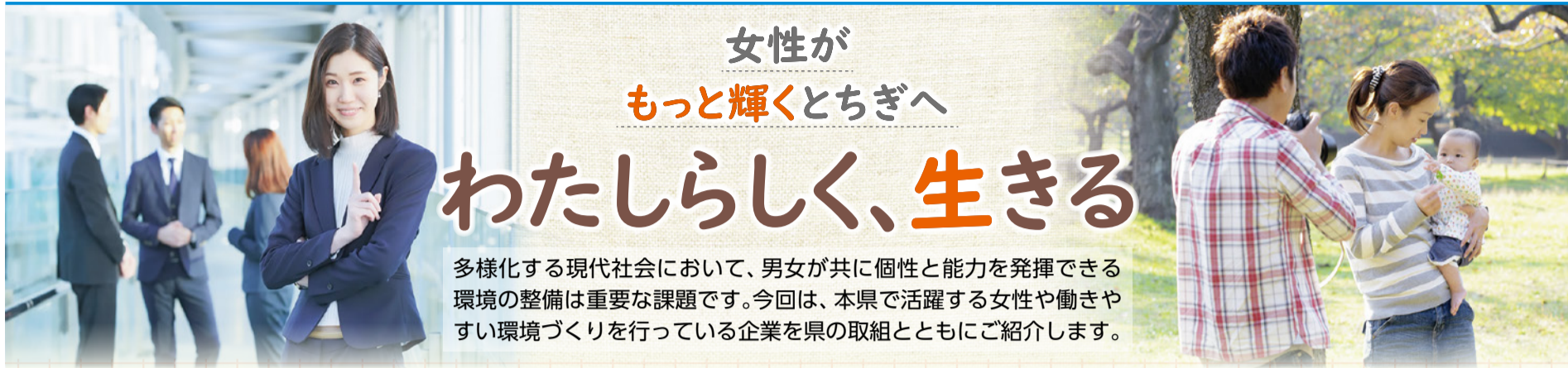




2面 わたしらしく、生きる(続き) ほか
目次 3面 県からのお知らせ ほか
4面 ユネスコ登録10周年世界に誇る結城紬 ほか
編集・発行 栃木県広報課 令和2(2020)年11月1日発行
〒320-8501 宇都宮市鳩田1-1-20
☎028-623-2192 FAX 028-623-2160
校了日以降の補正等は、県ホームページに掲載します
毎月第1日曜発行(次回は12/6発行)



女性が
もっと輝くとちぎへ

わたしらしく、生きる

多様化する現代社会において、男女が共に個性と能力を発揮できる環境の整備は重要な課題です。今回は、本県で活躍する女性や働きやすい環境づくりを行っている企業を県の取組とともにご紹介します。

女性の活躍＝男女が共に輝く社会の実現

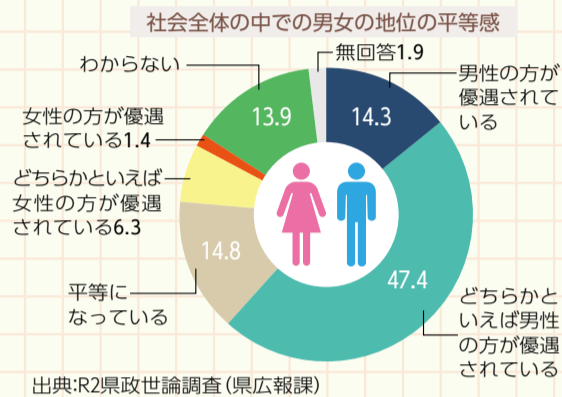
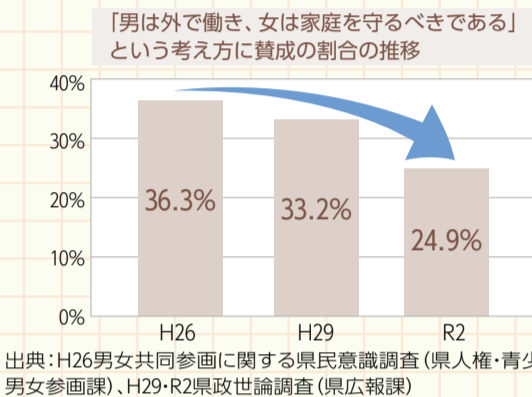
「男性は仕事、女性は家庭」という考え方は…

「男女平等ではない」と感じる県民が約7割

女性が地域や働く場で生き生きと活躍できる環境が整うと、人口減少が進む中でも社会に活力が生まれ、男性にとっても暮らしやすい社会になると言われています。

働く女性が増える中で、多くの女性が直面する課題が、仕事と家庭の両立です。本県では、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべき」という固定観念が解消されつつありますが、県民の約7割が「男女平等ではない」と感じています。

誰もが自分らしい生き方や働き方ができる社会の実現のため、引き続き一人ひとりの意識改革が求められています。



TOCHIGI WOMAN 県内で活躍する女性たち

さまざまな分野で活躍している5人の女性をご紹介します。これまでの歩みや仕事のやりがい、苦労したことなどについてお聞きしました。皆さんが、なりたい自分への一歩を踏み出す“きっかけ”となりますように。

- Q1. 今の仕事に携わろうと思ったきっかけ、動機は何ですか。
- Q2. 仕事でやりがいを感じるのはどんな時ですか。
- Q3. 仕事をする上で大変なことや苦労したことを教えてください。
- Q4. 後輩女性へメッセージをお願いします。

ながしま 絵美さん
長嶋 絵美さん
網島グラベル
ゼネラルマネージャー

食卓を笑顔で囲む1つのエッセンスになるようなトマトを作りたい

A1. ママ友に誘われて「とちぎ農業女子プロジェクト」に参加し、同世代の女性がそれぞれ夢を持って頑張っている姿に感銘を受けて、就農を決意しました。

A2. 農業は自分の発想をすぐにカタチにできるクリエイターのような一面があると思います。自身の地域で生産が少なかった「中玉トマト」に着目し、試行錯誤を重ね栽培方法を確立。中玉トマトの魅力を多くの人に伝えています。

A3. 自然が相手の仕事なので、近年の異常気象による栽培への影響は大きいです。夫と話し合いを多く持って、情報を共有し、解決策を導き出しています。

A4. 農業はとてもやりがいのある仕事。子どもに親が仕事をしている姿を見られることや、子ども中心に生活ができることも魅力の一つです。

かおり 香折さん
豊島 香折さん
株式会社けんちくや前長
二級建築士
とちぎの木を活かす女子の会 木輪 会長

「何事も経験」「今」と向き合ううちに、少しずつ自信が付いてくるもの

A1. 地域材を活用した家づくりをしていた家業を手伝い始めたのがきっかけ。実際に現場を見学に行く機会もあり、その魅力に引き込まれました。

A2. 設計はお客さまとのやり取りがあってこそ。ご要望はもちろん、その環境や条件、将来の暮らしなど考えれば限りがないほどです。その中で、私たちの想いの詰まったご提案を喜んでいただけた時はとても嬉しいです。

A3. 現場に行くこともありますが、重労働などは男性が代わってくれますし、お互い助け合えるので、困ったことはありません。

A4. 周り比べて不安になったり、何かに迷ったりすることもあると思いますが、そんな時間も将来の糧になります。何事も経験だと思います。

あけ 万里さん
類家 万里さん
管理栄養士
公認スポーツ栄養士

謙虚さと相手に寄り添う気持ちを大切に「チャレンジ」を怖がらないで

A1. “食”は人にとって必要不可欠。皆さんが日々の生活を送る中で、自分に合った健康的な食べ方を気軽に相談できる場をつくりたいと考え、フリーランス管理栄養士になろうと思いました。

A2. 幅広い分野に仕事の間を広げることができ、そこに管理栄養士が関わることでより良くなることを肌で感じられるときに達成感を感じます。

A3. 常に自身の健康管理には気を使います。子どもが小さい頃は、子どもが病気をしたときでも仕事を休めないことが一番つらいと感じました。

A4. どのような状況に置かれても、そこで新しい発見があるから、人生は楽しい。今は「ない」ものでも、「あったらいい」と思うものは、自分で切り開いて作り出せばいいのです。